



# 万国外科学会（ISS/SIC） 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部  
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部外科学教室  
TEL : 03-5363-3802 FAX : 03-3355-4707  
発行者：北川雄光  
編集責任：万国外科学会（ISS/SIC）Japan Chapter  
Secretary General  
和田則仁（慶應義塾大学医学部外科学教室）  
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060  
年2回発行1995年4月創刊

## ごあいさつ

国際医療福祉大学副学長・  
三田病院院長  
Past President ISS/SIC  
Congress President ISW2007

北島 政樹



2007年、モントリオールでISWを会長として主催してからすでに1年半が過ぎ、本年の9月はオーストラリアのアデレードでDr. Michael Sarr（米国）を会長として学会が主催される。

今回のISWは、昨年11月に北京で開催される予定であった国際消化器外科学会（ISDS）が突然、キャンセルになり、演題の1部がISWで発表される事になり、ISS/SICの副会長でISDSのプログラム委員長を務めるDr. Tonia Young-Fadokが最も対応に追われ忙しいようである。従って、今回のISS/SICの構成は、従来の四つのIntegrated Society、1つのPartner Society（ISDS）と15のParticipating Societyからなる。

さて、アデレードのISWも終わらぬ内に、昨年11月にISS/SICの事務局長のMr. Victor Bertschiが2011年横浜の学会について打合せの為、早くも来日した。

日本側は、出月康夫元会長、比企能樹名誉会員、山川達郎理事、およびLOCの渡邊昌彦会長、北野正剛副会長、北川雄光事務局長と私が打合せの会に参加した。またPCOの立場でJCSも対応をしてくれた。横浜市観光局、横浜観光コンベンションビューロー、パシフィコ横浜及び横浜グランドインターチェンジホテルの関係者も開催を期待すると同時に

## International Surgical Week (ISW) 2009とISW2011 本邦開催の意義

Councilor (2007-11), ISS/SIC,  
帝京大学医学部名誉教授

山川 達郎



Australia, AdelaideにおけるISW 2009の演題募集も本年2月15日に締め切られ、3月中旬ZurichにおけるISS/SICにおけるExecutive Board Meetingにおいて、プログラムの最終案が示されるものと思われます。Councilorの一人として出席させていただくのは私にとって初めての経験でありますので、様子が解からず今から緊張し得ておりますが、ISS/SIC日本支部長（National Delegate）の北川雄光教授からも、ISS/SICに司会者候補を推薦していただいておりますので、世界第2位の会員数を誇る日本支部から多くの方々が司会者に選出されることを疑いのないところです。

今回大きな特徴は、一度は袂を分けた世界消化器外科学会（International Society for Digestive Surgery ; ISDS）が、ISWに再度、参画することを希望し、それをISS/SICが受け入れたことであります。理由はいずれにしても、そうあるのが自然の歴史的流れであったわけですから、この決定はISS/SICの将来にとっても利するところが大きく、また多くのISDS会員を抱える日本支部会としても歓迎すべきことであると考えられます。

さて、ISWは、1905年、後に外科医としてはじめてNobel Prizeを授賞し

に大変な熱の入れ方と見受けられ、Mr. Victor Bertschiも満足そうであった。

まず学会関係の施設、パシフィコ横浜とインターチェンジホテルをくまなく見学し、日本側の準備の良さと会場の機能性に対し、何一つ注文をつける事もなかった。南アフリカのダーバンやモントリオールのコンベンションやホテルの視察を経験した私にとっては、それらの施設と比べて文句が出るわけがないと自信満々であった。

また、学会まで3年もあるということで概略の取り決めが行われた。例えば、Headquarter Hotelは横浜グランドインターチェンジホテル、Opening Ceremonyは国立大ホールを使用し、時間は海外からの到着便を考慮して、16～17時が望ましい。さらにISWとして多くの学会が参加する為、IAES（内分泌外科学会）は400人規模の会場と会場付近に個別の展示ブースを希望しているなど注文も多い。ISDSも大きな部屋を割り当てる必要があるだろう。

特に驚いた事は学会期間中がラマダンに当たる為、Praying Roomを準備する必要があるのではないか（モントリオールの総会で会場から注文があったのだが）という提案もなされた。

参加登録は第1期2011年1月31日、第2期4月30日（演題採否の時期と調整）、第3期。第2期以降はon site登録とする。さらに参加費などについて議論が行われたが、アデレードのISWなどの状況を勘案し最終決定されるであろうが、ISS member、Non-member、Traineeなど年令を含めて理にかなった設定が必要であろうという決定に至った。

今回のアデレードのISWは噂によると、Congress Banquetや会長招宴も開催しない予定と聞いているが、世界の未曾有の経済危機ではやむを得ないのかもしれない。少なくとも日本に於いて、2011年には少しは経済の回復の兆しと空気が読める政治家の出現を期待したい。

たTheodor Kocher教授を会長としてBrusselsにおいて第一回目の集会が開催されてから、100余年の輝かしい歴史を持つ学術集会であります。これまでの会長名を見ても、ISWの歴史は、外科の歴史そのものであるといつても過言ではありません。その偉大なる歴史の中で、日本人としては、出月康夫東京大学名誉教授と北島政樹慶應大学名誉教授が、それぞれ1995～1997年、2006-2008年、栄誉あるISS/SIC会長として君臨され、出月教授はISW1997をAcapulcoにおいて、また北島教授はISW2007をMontrealにおいて主催されました。そのお陰で、今こそ、日本支部もISS/SICの中で相当な発言力が得られるようになりました。しかし考えてみれば、つい最近の出来事であります。また100余年のISWの歴史の中で、ISWが日本で開催されたのは、1993年、日本人として初めてのISS/SICの名誉会員になられた日本医科大学の故斎藤 淳教授がLocal Organizing Committee (LOC) のPresidentをお勤めになった第27回ISW1997の1回にすぎません。したがって、このたび、北里大学 渡辺昌彦教授をLOC会長としてISW2011が本邦で開催されることになったことは誠に大きな意味があります。そしてこのISW2011が日本において盛大に開催された事実が、また外科の歴史とともに歩んできたISWの歴史の1ページに書きくわえることを思う時、ぞくぞくするような感覚に襲われるの、私だけでしょうか。日本支部会にとっても大きな遺産となるであろうことは言を待ちません。

このISW日本開催の意義を我々、日本支部会会員は噛みしめ、ISW2011を絶対に成功に導き、ISS/SICの中での日本支部会の地位を絶対的なものとしてほしいと念願しています。

ISW2009開催地Adelaideは、Australiaらしい雰囲気が漂う素晴らしい街であるということです。できるだけ多くの出席者を送り、ISW2011を宣伝してほしいと念願しています。会員諸氏のご協力をお願いいたします。

## メキシコの思い出

Honorary Member, ISS/SIC  
北里大学名誉教授

比企 能樹



1977年の第27回ISS/SIC京都大会に入会して以来30年、通算10大会に出席した。私は第35回香港大会以来、出月康夫先生や、その後山川達雄先生などとご一緒に、日本誘致運動をやってきた。何よりご同慶は、遂に第41回ダーバン大会で2011年の横浜開催が決定したことであった。加えてダーバンでは北島政樹教授が日本人2人目の会長に就任され、二つめの快挙となった。

この世界最古の外科医の学術集会は、演題の採用もなかなか厳しくハイレベルな研究発表がなされる。そして遠来の外科医たちを満足させるため開催国会長はその施設挙げて準備する。学術プログラムで満足してもらうのは当然のことだが、ソシアルプログラムでも、その国の特長を生かして趣向を凝らした。

第36回リスボン大会では、英雄バスコダガマの世界周遊の歴史を舞台で繰り広げ紹介したが、何頭もの本物の象が舞台の上を歩き、スケールの大きさに吃驚した。

第41回ダーバン大会では、アパルトヘイトから脱出した歴史が紹介され、アフリカのダンスや音楽も素晴らしいが、閉会の挨拶で、インドの民族衣装をまとったPillay開催国会長が「長い差別から立ち上がり、皆さんのお陰で国際学会を無事成功できた」と涙を見せて絶句され、全員の胸を強く打った。

このように催し物も、ただ面白いのみでなく、歴史と国の成り立ちや、高い文化が紹介されるのも当学会の特徴である。

これまでの学会総会のうち、何より私の心に残った哀しい思い出は、第37回アカブルコ大会での出来事であった。

メインのホテルは、庭に孔雀やフラミンゴが歩き回り、大きなプールが3面もあって、尚且つ足を伸ばすとプライベートビーチが広がる豪華なリゾートホテルで、会員諸氏は学術プログラムで熱くなったり体をプールや海で冷やし、翌日の発表や討議に備えることができた。

学術プログラムが終わると、学会のツアーで銀山のTaxcoへ数台のバスが向かった。沢山の参加者と、巨大なシャボテンがそびえる山をいくつか越えて、バスは山奥の街に停まった。古く小さな教会に案内され、暗い聖堂に入り、移植外科の世界的権威であるハノーヴァー大学Rudolf Pichlmayr教授と再会した。私を見つけると、懐かしそうに笑顔で声をかけ握手を求められた。可愛いお嬢様とともにリラックスしてツアーを樂しま

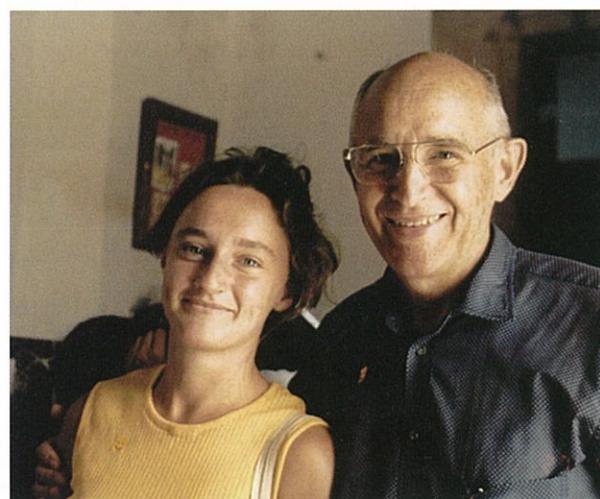
れていた。

ホテルに戻って夕方に、プールサイドにPichlmayr教授を発見した。先生に声をかけようかと思ったが、デッキチェアで静かに本を広げて居られるのをみると、疲れを癒しているのを邪魔するようで、敢えて遠慮した。

翌日の朝、学会の最終日にホテルの玄関に向かうと、旧知のドイツの外科医たちが呆然と立っていた。その視線の先には、Pichlmayr夫人とお嬢さんがワゴン車に乗り込まれる処だった。車が出ると、介添をしていたドイツ外科学会事務総長のHartel教授が、私たちを見つけ大急ぎで走り寄り「大変だ、Pichlmayr教授が亡くなられた」と言わわれ、私は耳を疑った。

メキシコの海は、湘南の荒波で育った私でさえ、驚くほど引き潮が強かった。この朝早くPichlmayr教授は一人海水浴をされている内に、潮の強い流れにさらわれたそうだ。若いドイツ人外科医が「わずか数メートル先にいたのに、あっという間の出来事で何もできなかった」と、興奮状態であった。

このような形で、巨星がメキシコの海に消えるとは信じられなかった。温和な教授を知る誰もが、大きなショックを受けた。私は、教会でお目にかかった時の、大きな暖かい手の温もりが、今でも忘れられない。



(左)  
Pichlmayr 教授・最後の  
ショット 愛嬢とメキシコ Taxco の聖堂にて



(下)  
アカブルコ海岸  
(いずれも比企撮影)

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。  
〔資料請求先〕  
**武田薬品工業株式会社**  
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
http://www.takeda.co.jp/

持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤  
指定医薬品 処方せん医薬品<sup>®</sup> 薬価基準収載

**プロプレス錠<sup>®</sup>** 2.4  
(一般名:カンデサルタン シレキセチル錠) 注:注意—医師等の処方せんにより使用すること  
(0903)T

Pfizer

オキサゾリジノン系合成抗菌剤  
指定医薬品 処方せん医薬品 注:注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**ザイボックス<sup>®</sup>** 600mg  
注射液 600mg  
錠 600mg  
Zyvox<sup>®</sup> (一般名:リネソリド) 薬号:LZO  
薬価基準収載

機能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。  
〔資料請求先〕  
**ファイザー株式会社**  
〒151-0589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
http://www.pfizer.com/japan  
2008年6月作成

## Gordon Research Conference に参加して

東北大学消化器外科学教授  
海野 優明



基礎医学教室に属していた10年ほど前に、Gordon Research Conferenceに共同研究者に誘われて出席したのだが、大変印象的であったので皆さんに紹介しようと思う。Gordon Research Conferenceは基礎研究者の間では有名なりトリートで、多くが夏休みの期間に行われている。私が参加したのは「membrane transport」のセッションで、5泊6日間の合宿形式であった。

ボストンのローガン国際空港に降り、そこから指定されたバスに乗り込み、フリーウェイを2-3時間北上したニューハンプシャー州の田舎町のはずれにあるプレップスクールに下ろされた。プレップスクールとは全寮制の予備校のようなものであろうか。夏休み期間の学生がいない期間をカンファレンスに貸し出しているようである。一番近くの町にも車で5分ほどかかるようなところに6日間、軟禁されたような生活が始まった。午前中は朝食後に2つのセッションがあり、昼食と長い昼休みがあり、夕方に1セッション、夕食後にもう1セッション、という形でそれぞれの

テーマごとに講演が行われる形式であった。私が出席したのは「membrane transport」のカンファレンスであったが、世界的に有名な研究者が集まり、それぞれの最先端の結果を発表し情報交換をするのが本カンファレンスの主目的である。全体で100名弱の参加者であろうか、日本からの出席者は我々を含め数名のみであったが留学中の日本人が2-3名参加していた。

ちなみに宿泊はプレップスクールの寄宿舎で、ログハウス風の小奇麗なものではあったが、テレビやエアコンはなく質素なものであった。朝昼夜と食事が用意されているのであるが、食事の間にも交流を深めるようにという配慮で日本人同士が相席することはままならず、また食事もいわゆるアメリカ流こてこて料理が6日間も続き、これが大変なストレスであった。

Gordon Research Conferenceは基礎研究者の間では特に有名なりトリートであるが、有名な理由は最新の研究成果の発表のみならず、世界中の有名な研究者（ラボチーフ）が有能なポスドクをリクルートするため、また自信あるポスドクが自分を有名ラボに売り込む場であるため、と思った。ポスドクによるポスターセッションはまさに両者の思惑があいまみえる場所で双方とも必死である。有名ラボチーフがランクで紳士的であること、基礎研究者のひた向きさ（必死さ）を知ることができた。

最後に、自分は日本ではsurgeonであるとアメリカ人の女性ポスドクに話したところ、「surgeonが何でこんなところに来ているの？アメリカのsurgeonはこんなところには来ないわよ」と言われたことが、基礎教室から臨床に戻る決意を固める1つの理由になったことも付け加えておく。

国際学会はいろいろな意味でexcitingでありmeaningfulであるというのが私の結論である。

## 第44回万国外科学会 (ISW2011) の成功に向けて

Secretary General, ISW2011/LOC  
北里大学医学部外科学講師  
片田 夏也



万国外科学会会員の先生方、ならびに外科系各学会の会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。ご存知のとおり、2011年8月28日（日）～9月1日（木）の5日間にわたり第44回万国外科学会（ISW2011）がパシフィコ横浜で開催されます。組織委員会会长として、私共北里大学外科の渡邊昌彦教授が選出され、この度、当大学外科内に本学会事務局が発足しました。私はその事務局担当を拝命いたしました。現在、渡邊教授の指揮のもと、北里大学外科医局員が一致団結して開催準備を進めている次第でございます。

1905年に第1回が開かれた万国外科学会は、その後ほぼ2年ごとに開催され今回で44回目を迎えます。申し上げるまでもなく本学会は、外科学の分野で最も歴史のある国際学会であり、日本での開催は、1977年の京都での第27回（会長：故齊藤渉日本医科大学名誉教授）以来34年振り2度目となります。今回、本学会をわが国で開催するに至るまでの経緯には、万国外科学会日本支部の歴代の支部長を始めとする諸先輩、諸先生方の並々ならぬご尽力があってのことと存じます。歴史と伝統ある本学会を渡邊教授以下、私共北里大学外科が担当させて頂くことは、この上

なく光栄に存じますとともに、その重責を認識し身の引き締まる思いでございます。

さて、昨年米国を起点として発生した金融危機により、世界中が厳しい経済的環境にある中、当事務局といたしましても、諸先生方のご指導を賜りながら、いかに効率的に有意義な学会運営を行うかということが最大の課題であると考えております。魅力的なプログラムを構築し、国内外を問わず多数の方々に参加して頂くとともに、各領域の共催、後援団体にご支援を賜り、かつ学会経費を厳密に管理してまいりたいと存じます。

一方、先進国と開発途上国との間の医療の質の格差は依然として未解決の問題であり、外科学の領域におきましても例外ではありません。今回、開発途上国を多数かかえるアジア地域における開催ということで、開発途上国の中手外科医にとって、外科学の基礎から最新の知見に至るまで幅広く学ぶことのできる絶好の機会となるようシステムを整える必要があると考えております。もちろん日本の先生方にも多数のご参加を期待しております。わが国における外科医不足、外科志望者の減少の折、若手外科医はもちろんのこと、これから外科医を目指す医学生や研修医の皆さんにとっても、世界を感じることができ夢を抱くことができる、実り多い学会となるよう努めてまいります。

以上、開催に向けては難しい局面も予想されますが、万国外科学会会員の先生方、ならびに外科系各学会の会員の諸先生方におかれましては、学会運営に関し忌憚のないご意見ご指導を賜りたく、本学会の成功に向けてぜひともご協力ををお願い申し上げます。

第44回万国外科学会 組織委員会事務局 北里大学医学部外科内  
〒228-8520 神奈川県相模原市麻溝台2-1-1  
TEL : 042-748-9111(内線2865) FAX : 042-745-5582  
E-mail : isw2011@kitasato-u.ac.jp

**献血ヴェノグロブリン-IH ヨシトミ**

血漿分画製剤（液状・静注用人免疫グロブリン製剤）  
生物学的製剤基準 ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン 指定医薬品、処方せん医薬品注)  
Kenketsu Venoglobulin-IH YOSHITOMI 献血

※〈禁忌〉〈原則禁忌〉〈効能・効果〉  
〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等の  
詳細については、製品添付文書を  
ご参照ください。

製造販売元（資料請求先）  
**株式会社ベネシス**  
大阪市中央区平野町2-6-9

販売  
**田辺三菱製薬株式会社**  
大阪市中央区道修町3-2-10

VGX-2009年2月作成

**中外製薬**  
Roche ロシュ グループ

**抗悪性腫瘍剤**  
劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品注) 薬価基準収載  
**ゼロータ錠300**  
Xeloda® 力ペシタビン錠  
注) 注意一医師等の処方せんにより使用すること  
※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上  
の注意、効能・効果に関連する使用上の注意等に  
ついては製品添付文書をご参照ください。  
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

at the Front Line  
CHUGAI ONCOLOGY

製造販売元 中外製薬株式会社 | 資料請求先  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
2008年10月作成

**第26回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会議事録**  
2008年11月29日土曜日 午前7:00～8:00  
於：ホテルニューオータニ東京 クレセント

**議 事 錄**

**1. 支部長開会の挨拶：北川雄光日本支部長**

**2. ISW2011 LOC会長の挨拶：渡邊昌彦会長**

2011年8月28日（日）～9月1日（木）横浜で開催される。1977年の27回大会（京都）以来である。会員の先生方には、組織委員会にご参加いただくとともに、組織委員をご推薦いただきたい。Integrated SocietyとLOCでプログラムを作成するが、アジア・太平洋地域からも座長を推薦したい。アデレード大会への参加もお願いしたい。

**3. 前ISS/SIC会長の挨拶：北島政樹前会長**

ニューオリンズのACSの際に開催されたISS/SIC理事会で、満場一致で横浜開催の詳細が決まった。先人の努力によるところが大きい。渡邊昌彦LOC会長、北野正剛副会長、北川雄光日本支部長を中心に準備が進められているが、是非会員各位のご支援をいただきたい。本年アデレードでのISW及びサンフランシスコのACSの際に開かれたISS/SIC理事会で、北京開催予定のISDSは中止が決まった。ISDSはWorld Journal of Surgeryをofficial journalにするとともに、今後ISWにはpartner societyとして参加することになった。アデレードと横浜のISWを成功させるためにもご支援を賜りたい。

**4. 前回議事録確認の結果、承認された。**

**5. スイス本部からの依頼事項**

A) ISW2009座長推薦について、候補者があつたらお知らせいただきたい（北川雄光日本支部長）

過去の状況では日本支部の会員の中から100名程度推薦していた。日本の各integrated societyから多くの人を送って欲しい（山川達郎理事）

本学会は国際的にIntegrated societiesからの声が大きいが、日本からなるべく広く多くの座長を推薦したい（北島政樹前会長）

B) Prize Winners 2009、名誉会員の推薦

名誉会員は生存者でなければならないのでタイミングが大事である。会長経験者が有望であり、ぜひ時期を見て推薦すること（比企能樹前理事）

今回は学会理事会の動静をみて、日本からの推薦は見送る（北川雄光日本支部長）

C) 新しいcouncilorの推薦

アジアからはJ. Wongが推薦される予定（北島政樹前会長）

今回は日本からは推薦を見送る（北川雄光日本支部長）

**6. ISW2011に向けての活動報告等**

主催は万国外科組織委員会だが、共催／後援として神奈川県、横浜市、文科省、厚労省等が加わる予定である。さらに日本医師会、学術団体として日本外科学会、日本消化器外科学会、乳癌学会等の主要な学会にお願いすることになる。ご協力をお願いしたい。日本学術会議にも協力要請する予定。経済状況は厳しいが世界内視鏡外科学会を成功させた北野教授を副会長として協力して進めていく（渡邊昌彦LOC会長）

出席者；

愛甲孝、白杵尚志、宇山一朗、海野倫明、冲永功太、片田夏也、金子弘真、上西紀夫、北島政樹、北野正剛、木村理、熊谷一秀、小寺泰弘、後藤満一、嶋田紘、清水一雄、白日高歩、関川敬義、高見博、田尻孝、田中淳一、谷川允彦、橋爪誠、比企能樹、前田耕太郎、真船健一、丸田守人、宮澤光男、村尾佳則、矢永勝彦、山川達郎、吉田寛、若井俊文、渡邊昌彦（敬称略；五十音順）（事務局；北川雄光、和田則仁、鈴木和子）

**7. Integrated societiesについて**

A) ISDS

今後の予定はISDS内でいろいろ議論がある。キャンセルになった北京の演題をアデレードで発表してもらう予定（嶋田紘教授）

ISWでは、ISDSとして出したプログラムが通りやすいので、integrated societiesへの積極的な関与が必要である（北島政樹前会長）

B) IAES、BSIの歴史的背景と現状について解説（高見博教授）

日本から2名の代表を送ってほしい（北島政樹前会長、山川達郎理事）会員を増やしてほしい（比企能樹前理事）

C) Integrated societiesについては日本人で中心的に活動してくれる先生に万国外科日本支部から働きかけていく（北川雄光日本支部長）

**8. 機関紙報告**

WJSは日本からの投稿も増加。ISDSのofficial journalにもなった（北川雄光日本支部長）

ACSでboard meetingがあった。日本からの投稿が増え感謝している（北野正剛LOC副会長）

**9. その他**

A) 国際委員会への出席は、会員数では米国に次いで2番目であり、これによって理事・LOC会長・日本支部長のほかに更に1名が員として出る権利が生じ、アデレードではもう一人出席する用意をしておく必要がある（比企能樹前理事）。

B) ISS foundationには日本からapplicationがない。私がpresidentを務めているので、若い外科医の積極的な応募を期待する（北島政樹前会長）

C) 各支部で独自にISW関連の公認旅行会社を決められると本部から連絡があった。

これまでJALPAKより申し出がある。他に適した会社があればお知らせいただきたい（和田則仁事務局長）

以上

（文責 和田則仁）

**会員動向（2009.4月）**

会員数	341名
内訳	
アクティブメンバー	311名
シニアメンバー	27名
名誉メンバー	3名

**支部活動報告**

2008.11.29 第26回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（於：東京 ホテルニューオータニ）

2008.11.29 万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第27号発行

2009.3 万国外科学会スイス本部へ寄付（EUR1,300.00:2009年分）

2009.4.4 第27回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（於：福岡 福岡サンパレス）

2009.4 万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第28号発行

**2008年収支決算・2009年予算書**

2008年収支決算書 2008年 決算(2008年1月1日～12月31日)		
日本円の部		
Ⅰ 収入の部	予算額	決算額
会費（ユーロから預替）	1,200,000	0
広告掲載料	400,000	600,000
雑収入	0	100,000
利息	0	2,251
当期合計	1,600,000	702,251
前年繰越金	2,658,466	2,658,466
取入合計	4,258,466	3,360,717
Ⅱ 支出の部		
スイス本部へ寄付	80,000	79,034
会議費	300,000	179,025
通信費	200,000	155,785
印刷費	450,000	462,210
文具費	50,000	22,668
交通費	150,000	110,800
人件費	240,000	260,000
謝礼	0	0
雜費	10,000	0
予備費	30,000	32,540
支出合計	1,510,000	1,302,062
収支残高	2,748,466	2,058,655 (2009年 繰越金)

ユーロの部		
収入の部	予算額	備考
会費	9,500.00	8,947.20
利息	0	0.08
繰越金	0	0
収入合計	9,500.00	8,947.28
支出の部		
日本円へ預替	8,000.00	0
スイス本部寄付	1,500.00	1,459.20 不足分を円通帳から寄付
支出合計	9,500.00	1,459.20
2009年繰越金	0	7,488.08

残高 日本円 2,058,655 円 (通帳残高 2,050,688 円 + 現金 7,967 円)

ユーロ 7,488.08 ユーロ

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

H. 21年 2月 23日 監事 田中雅夫

2009年予算案 (2009年1月1日～12月31日) ISS/SIC		
日本円の部		
収入の部	予算額	備考
ユーロから預替	1,000,000	ユーロ通帳から預替
広告掲載料	500,000	
寄付	400,000	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,900,000	
前年繰越金	2,058,655	
収入合計	3,958,655	
支出の部		
スイス本部へ寄付		ユーロ通帳から寄付
会議費	400,000	2回分
通信費	200,000	
印刷費	470,000	ニュースレター2回発行分
文具費	50,000	
交通費	150,000	出張旅費
人件費	520,000	
雑費	10,000	
予備費	100,000	
支出合計	1,900,000	
収支残高	2,058,655	

ユーロの部		
収入の部	予算額	備考
会費	9,000.00	
利息	0	
繰越金	7,488.08	
収入合計	16,488.08	
支出の部		
日本円へ預替	8,000.00	
スイス本部寄付	1,300.00	2009年分
支出合計	9,300.00	
2010年繰越金	7,188.08	

**持続性癌疼痛治療剤**  
劇薬・麻薬・指定医薬品・処方せん医薬品<sup>(1)</sup>

**オキシコンチントイン錠<sup>®</sup>**  
**5mg・10mg・20mg・40mg**  
OXYCONTIN<sup>®</sup>Tablets

オキシコドン塩酸塩徐放錠  
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**癌疼痛治療用散剤**  
劇薬・麻薬・指定医薬品・処方せん医薬品<sup>(1)</sup>

**オキノーム散0.5%**  
**2.5mg/包・5mg/包**  
OXINORM<sup>®</sup>Powder

オキシコドン塩酸塩散  
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

■ 薬価基準収載 ■ 「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」、「原則禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書等をご参照下さい。

2008年9月作成 B7

②: オキシコンチントイン並びにオキノームは登録商標です。  
③: OXYCONTIN and OXINORM are Registered Trademarks

提供  
mundipharma ムンディファーマB.V.  シオノギ製薬  
大阪市中央区道修町3-18 〒541-0045  
電話 0120-956-734 (医薬情報センター)  
http://www.shionogi.co.jp/mcd/